

平成 29 年度研究推進計画

学校名 海田町立海田東小学校
学校長 大橋 綾子

研究内容・方法の概要

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成
～資質・能力を育む「課題発見・解決学習」の授業づくり～

2 研究主題設定の理由

平成 27 年度から、広島県教育委員会「『学びの変革』パイロット校」として、「主体的な学びのある授業づくり」をめざして取り組んできた。次期学習指導要領では、知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。本校では、育成したい資質・能力を「主体性」「思考力」「自己理解」に重点化し、国語科と総合的な学習の時間を中心に、「課題発見・解決学習」による単元構成により、児童が目的意識を明確にした上で「学びたい」という意欲をもち、探究し続けることのできる授業づくりを進めている。

児童の「主体性」を引き出すための手法としては、単元で「付けたい力」や「育成したい資質・能力」を明確に示した「学びのドリームプラン」を作成し単元開発に取り組んだ。「学びのドリームプラン」では、課題設定の際に、児童の学びの上での願いをかなえるための学習活動を設定し、ゴールの見通しを明らかにすることで、児童の主体的な意欲の向上をめざした。学習の設計図とも言える「学びのドリームプラン」により単元開発を工夫した結果、単元を通して児童が学習意欲をもち続け必然性のある学びを実現することができるようになった。また、必然性のある学びは個々の教科内で完結するものではなく、教科を横断的に関連付けることでさらに深まっていくことも明らかになってきた。今後は、授業づくりと共にカリキュラム・マネジメントを充実させていく必要がある。

「思考力」の育成に向けては、児童同士の協働的な「学び合い」の場を設定し、思考の場の工夫を行った。本校では学習における児童の思考を、課題に直面した時点で集められる情報や知識を入手し、それらを統合して課題を解決する論理的な思考と、アイデアや情報、知識の交換、共有、およびアイデアの深化や考えの再吟味を行いながら最善解を導き出す創造的な思考の二つに整理している。さらに、思考の視点を「論理的思考力」では「比較・分類・構造化・評価」、「創造的思考力」では「多面的・関連付け」と具体化し、思考の視点に応じた「思考ツール」を活用し、「どのように考えるのか」を児童に明らかにしながら授業づくりを行った。「思考ツール」は、互いの考えを可視化することに有効で、言葉や文章で表現すること苦手な児童でも、単語レベルから表現することができる。「思考ツールを」効果的に活用することで児童が考えを明らかにし、相互に交流することで少しずつ考えが広がったり深まったりしている。今後は、児童同士の双方向のやりとりを充実させることで、児童の思考する力をさらに深め、思考の深まりを児童自身にも実感させることが必要である。

「自己理解」の育成については、自ら学び続ける主体的な学びの実現のためには、学習の実感や手ごたえ等の自己変容に気付くことが重要と考え、自己を省察（モニタリング）する「学習としての『評価』」に取り組んだ。学習活動として、単元末に「学びのモニタリング」の時間を設定し、児童自らに学習の評価を行わせた。児童の評価力を向上させるための手立てとしては、単元や1時間の授業のゴールを見通し、どんな力を付けたらよいのか、何ができたらよいのか、教師と児童が評価基準を共有して学習を行った。その結果、「学びのモニタリング」では、学習内容を振り返り、学習を通して付いた力を自らとつなげ自己変容を自覚することができるようになってきた。今後は、教科の特質に応じた見方・考え方を生かした「付けたい力」の定着とともに「育成したい資質・能力」の変容等を見取るために、教師及び児童自らの評価力をさらに高めていくことが課題である。

昨年度までの課題をふまえ、『学びの変革』パイロット校」3年目の取組は引き続き、海田南小学校（「学びの変革」実践指定校）と海田中学校の3校（海田中学校区）が協働して進めていく。研究主題を、「主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童・生徒の育成」とし、「主体的・協働的な学びのある授業づくり」を通して「課題を追究する力（主体性）」「深く考える力（思考力）」「自己を理解する力（自己理解）」の3つの資質・能力を育てていく。

今年度は、児童が目的意識をもって「学びたい」という意欲をもち、主体的に探究し続けることができるような「課題発見・解決学習」の単元開発に取り組むことに加え、総合的な学習の時間・生活科を中核として各教科等の結び付きを明確にした授業の工夫・改善を行う。また、研究教科を国語科だけでなく他教科へ広げ、単元開発の手法（「学びのドリームプラン」）を生かし「課題を追究する力」の育成に向けて、必然性のある学習内容や本質的な問いの解決をめざした課題の設定を大切にす。また、1年間を通してPDCAのマネジメントサイクルを生かしなが見直しをもってカリキュラム（年間指導計画）の評価・改善を行い、教科等のつながりを中心とした児童の学びを「つなぐ」ことを意図したカリキュラム・デザインを行う。

思考する場面では、どのように思考したらよいか、思考の視点を児童に具体的に示したり、時には児童に選択させたりして「思考スキル」を効果的に活用する。考えを視覚化した上で協働的な学びを促し「深く考える力」を育成する。単元全体で付けたい力を明確にし、1時間の授業ではめあてを基に学習における思考の視点を明らかにし、児童一人一人が自分なりの考えをもち、それを共有し、さらに練り上げることを通して考えを深め合う授業づくりをめざす。「思考ツール」は、児童の思考の流れに応じて効果的に活用し、思考の跡や変容が分かるように工夫する。また、可視化された情報は、付箋紙やホワイトボードなどで自在に動かしたり、書き直したりして情報の操作化を行う。情報を操作化することは、情報と自分自身や児童同士との対話的な学びを促すことができる。と考える。

「自己を理解する力」の育成をめざして、引き続き、児童自らが学習内容や学び方を振り返り、自己を省察（モニタリング）する「学習としての『評価』」に取り組む。学習活動としては、単元末の「学びのモニタリング」の時間に、学習の評価を行わせる。学習内容を確認するだけでなく、現在や過去の学習内容と関係付け一般化したり、学習内容と自らとつなげ自己変容を自覚したりすることができるような振り返りの場として充実させる。そのために、単元全体や1時間の授業のゴールを見直し、どんな力を付けたらよいか教師と児童が評価基準の共有を継続して行う。児童が言葉で表現し、学習活動を振り返ることを積み重ねることで、自ら学び続ける意志を育成したい。

児童の「主体的な学び」を促すための土台となる「基礎・基本」の確実な定着を図るためには、これまで取り組んできた学習基盤としての学習環境づくりと集団づくりを、支援の必要な児童を視野に入れた授業のユニバーサルデザイン化、読書活動の推進、スキルタイム（のびっこタイム）の充実、家庭学習の定着等に学校全体で共通に進めていく。

3 研究仮説

「課題発見・解決学習」の単元開発により、思考の場や学習としての評価の場を充実させた授業づくりを行えば、主体的・協働的に学び自分の考えを深めることのできる児童が育成されるであろう。

4 研究の内容

(1) 授業づくり

(ア) ○課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の単元開発

・単元構成の工夫

〔必然性のある学習内容，本質的な問いの解決をめざした課題設定〕

<各教科>

・教科の特質に応じた見方・考え方を生かした学習過程

〔言語活動の充実〕

<総合的な学習の時間・生活科>

・育成したい資質や能力を明確にした探究的な単元構成

〔地域・社会への貢献を視野に入れた課題設定の工夫，各教科との関連〕

○マネジメントサイクルに基づくカリキュラム（年間指導計画）の評価・改善

(イ) ○思考の場の工夫

思考の視点の明確化，児童との共有

論理的に考える力…「比べる（比較）」「分ける（分類）」

「組み立てる・まとめる（構造化）」「評価する」など

創造的に考える力…「いろいろな見方（多面的にみる）」「つなげる（関連付け）」など

○思考を深め，可視化・操作化する「思考ツール」の活用

(ウ) 学習としての「評価」の充実

○児童が学びを省察（モニタリング）する場の工夫

・「学びのモニタリング」の視点の明確化（学習内容・自己変容）

○教師と児童の評価力の向上

・ゴールの見通しを共有するための評価基準の共有

・成果物等を通じた評価力の向上

(2) 環境づくり

(ア) 児童の意欲を育む学習基盤づくり

・共感的・協働的な学級集団づくり

・学習環境づくり

・授業のユニバーサルデザイン化

(イ) 日常的な取組

・読書活動の充実（読書タイム，読み聞かせ）

・スキルタイム（のびっこタイム）の充実

・家庭学習の定着

5 研究の方法

(1) 理論研修（研究主題に関わる共通認識）

(2) 授業研究（一人一回以上の授業研究を実施）

○授業実践を参観し，視点に沿って授業分析を行い検証する。

- ・児童の変容を確かめ，有効な手立てについて検証するために
 - ア 低・中・高学年ブロックで，単元構成を行う。（「学びのドリームプラン」の作成）
 - イ 学年部会で「学びのドリームプラン」及び指導案を作成する。
 - ウ 学年ブロックで「学びのドリームプラン」及び指導案検討をし，修正をする。
 - エ 学年で事前授業を行い，指導案の修正をする。
 - オ 全体授業研修を行う。
- ・8教科（国語科，社会科，算数科，理科，生活科，音楽科，家庭科，体育科），総合的な学習の時間の授業研究を行う。
- ・パイロット教員は，中心的に単元開発に関わり，学年部と連携し，授業をコーディネートする。
- ・「学びのドリームプラン」は，起案の手続きをして，決裁を受けてから本単元の学習に入ることとする。
- ・全体授業指導案は，起案の手続きをして学年部で印刷，配布をする。講師の先生にも2週間前には送付する。
- ・全体授業指導案は，3日前までに全職員に配布し，参観者は事前に必ず熟読する。
- ・学習終了後には，協議会及び指導・助言の内容を反映した修正指導案を速やかに作成し，起案する。

6 研究成果の評価・検証方法

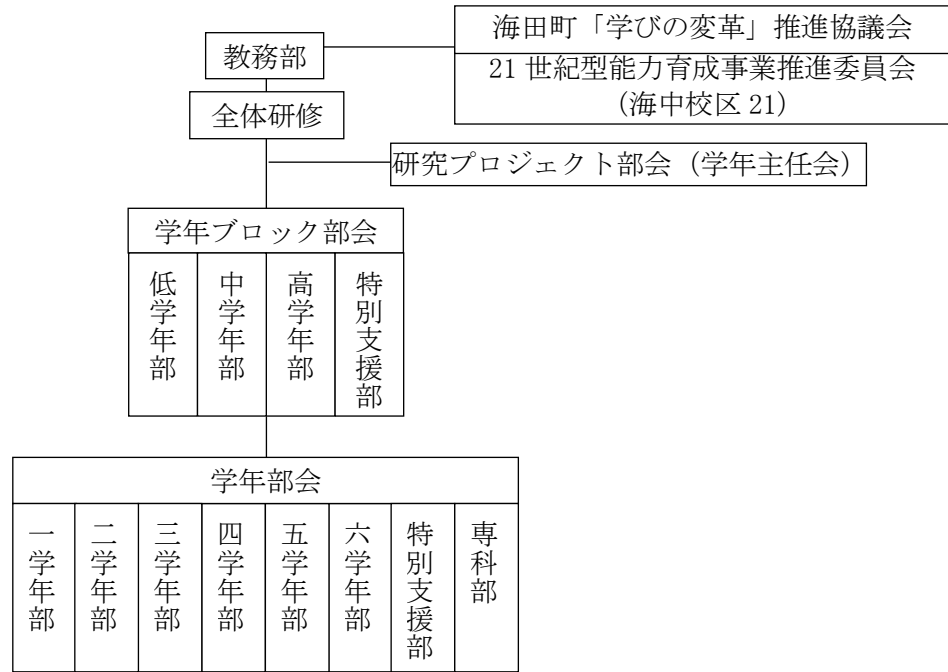
(1) 授業研究の検証（成果物，授業記録の研修）

(2) 学力調査と調査問題検証

(3) 児童・教職員の意識調査の実施と分析

(4) 保護者の意識調査の実施と分析

7 研究の組織



※専科部は、少人数指導・音楽・理科で構成し、日本語教室担当は特別支援部に入る。

※専科部の学年ブロック部会は、実施学年の該当するブロックで検討を行う。

※総合的な学習の時間については、専科・日本語教室担当は各学年に入り研究に参加する。

※全体研修においては、授業記録（写真等）及び印刷・協議会会場準備などの役割分担を行う。

8 具体的な研修計画（予定）

月	日	曜	研究内容
4			校内研修 研究主題 推進方針 研修計画について 全体研 理論研修 本年度の方向性について
5	17	水	全体授業研究（5年3組 総合的な学習の時間） 5校時
5	24	水	理論研修 パイロット教員実践報告・講演 (講師：京都大学 准教授 石井 英真)
6	6	火	校内授業研究① (3年1組 体育科) (講師：神戸親和女子大学 准教授 田中 聡)
6	23	金	校内授業研究② (2年1組 生活科) (4年1組 総合的な学習の時間)
6	28	水	校内授業研究③ (1年3組 生活科) (6年2組 社会科)
7	12	水	校内授業研究④ (専科 理科) (なかよし 体育科)
8	7	月	校内研修・海中校区 21 研究公開 DP の検討

月	日	曜	研究内容
9	6	水	校内授業研究⑤ (6年1組 総合的な学習の時間) (講師：甲南女子大学 教授 村川 雅弘) 未定
9	20	水	校内授業研究⑥ (1年1組 体育科) (なかよし 自立活動)
10	17	火	海田中学校校区研究公開 全体授業研究
10	31	火	校内授業研究⑦ (4年3組 社会科) (5年1組 家庭科)
11	17	金	校内授業研究⑧ (2年2組 音楽科) (専科 算数科)
11	29	水	校内授業研究⑨ (3年3組 国語科) (専科 日本語教室)
1	26	金	校内授業研究⑩ (2年3組 国語科) (5年2組 国語科)
2	1	木	校内授業研究・海中校区21 (4年2組 国語科) 5校時 (講師：広島大学 教授 難波 博孝)
2	9	金	校内授業研究⑪ (6年2組 国語科) パイロット教員 師範授業
2	14	水	校内授業研究⑫ (1年2組 国語科) (3年2組 総合的な学習の時間)
2	21	水	校内授業研究⑬ (専科 音楽科)

※一人1研究授業以上授業提案を行う。

※理科については、理科教育推進委員会の授業研究と兼ねる。

※パイロット教員は年2回の研究授業を行う。(広島県教育委員会 指導主事が訪問。全体研修を行う。)

※「海中校区21」の授業研究には、全員1回以上参加する。

海中校区21の日程

月	日	曜	研究内容
6	29	木	海田南小学校 (国語科) 講師：(広島大学大学院 教授 難波 博孝)
9	21	木	海田中学校 (国語科) 講師：(広島大学大学院 教授 難波 博孝)
11	16	水	海田南小学校 (理科) 講師：()
12	5	火	海田中学校 (総合的な学習の時間) 講師：()
1	19	金	海田南小学校 (総合的な学習の時間) 講師：()